

課題

【中・数学】一次関数のグラフの利用において、自分の考えをまとめることが苦手

手立て

- 問題文から問われていることを丁寧に把握させる。（自分事として捉えられる素材の準備）
- 問題解決に必要な既習内容（知識・技能）を確認する。
- 協働的な学びの際に、自分の考えを深め、発表の機会を設ける。

具体例

POINT① 「自分事」に捉えさせ、読み取る力を高めさせる

- 問題文を整理し、解決に必要な情報を読み取らせる。
 - ・数学化できる日常的な事象を扱うことで、「自分事」として読みとらせましょう。
（例：全国学調 数学R4～6：大問8、R3：大問7、H3 I・R2：大問6 等）
 - ・問題文の読み取らせ方を工夫しましょう。
生徒は教師が考えているよりも、問題文の読み取りに困難を抱えています。
→問題文のポイントとなる部分の提示方法を工夫（アンダーラインを引く等）し、内容を理解させ、解決の見通しを持たせることに注力しましょう。

POINT② 関数概念の理解が第一

一次関数の利用において、既習の知識・技能を活用させる

- 表、グラフ、式を相互に関連付けて考察する習慣から関数の概念を深めさせる。
 - ・簡単に作成できる表から考察し、実際にグラフにプロットする作業から関数の概念を深めましょう。式化することだけが目的になっていると、関数の利用において知識・技能の活用が難しくなってしまいます。
- 問題解決の際、生徒にどの既習内容を利用すればよいのか、考えさせ、確認する。
（既習内容に目を向けることへの習慣化）
→ヒントカード等を用意しておく、生徒への支援につながります。

POINT③ 「自分で取り組む」・「広げ深める」際に、 自分の考えをまとめ、相手に説明させる

- 自分の考えをまとめ、相手に説明できるように、まとめや発表の時間を設ける。
 - ・「問題を解いて終了」となっていないですか？全国学力・学習状況調査では**記述する力**や**説明する力**が問われています。**普段から、協働的な学びを意識して、自分の考えを構築する場を設けましょう。解決方法を振り返り、自分の考えをまとめること、他者と交流し、説明する活動を取り入れることで記述する力や説明する力が構築されます。また、わかり易い表現の好事例を提示することも大切です。**